

「ミスター」、
野球とともに生きた
89年の栄光の軌跡。



長嶋茂雄追悼展

ミスタージャイアンツ 不滅の背番号3

2026年7月4日(土)～7月19日(日)

営業時間 10:00～18:30 *最終入場は閉場時間の30分前まで
*最終日は18:00閉場(17時30分最終入場)

トキハ本店 8階催し場 〒870-8688
大分県大分市
府内町2丁目1-4

チケットぴあ <チケットぴあ限定>

当日券料金からは最大600円おトク! /

早期ペア割チケット(2枚組) 1,800円

6月1日(月)～6月30日(火)の期間限定販売 ※先着200組限定
※本券をご購入いただくと、合計2名様ご入場いただけます。
※数量限定のため、予定枚数が無くなり次第販売終了。

入場料 前売券:一般・大学生 1,000円/中高生 800円
<税込> 当日券:一般・大学生 1,200円/中高生 1,000円

◎小学生以下入場無料 ※必ず保護者(18歳以上)同伴でご入場ください。

前売券は、6月1日(月)より発売。エトウ南海堂(大分市中央町)または、全国の「セブン-イレブン」「ファミリーマート」店頭にてチケットぴあ(Pコード: 996-059)をご利用下さい。7月3日(金)23:59までお買い求めいただけます。

【当日券会場販売について】

会期中は会場チケットカウンターにて当日券を販売いたします。

販売期間:7月4日(土)～19日(日)
販売時間:10:00～18:00

◆主催:読売新聞社、読売巨人軍、日本テレビ放送網、報知新聞社 ◆共催:TOSテレビ大分 ◆協力:トキハ ◆特別協賛:セコム ◆協賛:光村印刷 ◆大分展特別協賛:朝日ソーラー

我が巨人軍は永久に不滅です

長嶋茂雄追悼展

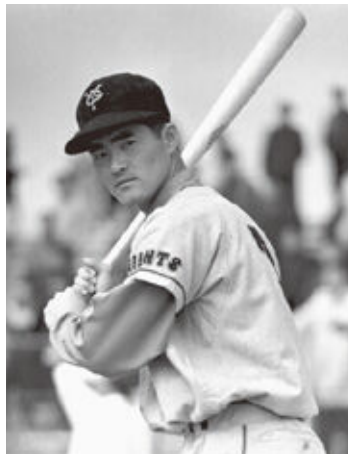
ミスタージャイアンツ 不滅の背番号『3』

昭和・平成の時代を通じて日本のプロ野球界をけん引し続けた長嶋茂雄は、「我が巨人軍は永久に不滅です」「メーク・ドラマ」「勝つ!勝つ!勝つ!」などの名言とともに、数々の名場面を私たちの記憶に刻みました。野球を国民的スポーツとして根付かせたその功績は、スポーツの枠を超えて多くの人々に影響を与えました。2025年6月3日、89年の生涯を閉じた長嶋。その偉大な足跡を振り返る展覧会を開催いたします。本展では、写真や映像、ゆかりの品々を通して長嶋茂雄の軌跡をたどります。また、数々の名言や各界との交流などを通じて、広く国民に愛された「ミスター」の人柄と魅力を紹介します。

第1章 燃える男 スター誕生

〈～1958年〉

佐倉一高、立教大学での東京六大学リーグ新記録となる8号本塁打などの活躍を経て、1958年に巨人軍に入団。一気にスターダムにのし上がっていく背番号「3」の姿を追います。



明石キャンプで練習中の巨人軍・長嶋選手 (1958年)

第2章 栄光の背番号3

〈1959～1974年〉

天覧試合でのサヨナラ本塁打により、長嶋は国民的スターへ、野球は国民的スポーツへと押し上げられました。現役時代の17年間で巨人は13回のリーグ優勝と11回の日本一を記録。日本一連覇が9でストップした1974年、長嶋は「我が巨人軍は永久に不滅です」の名言を残して引退。38歳の若さで巨人軍監督に就任しました。



「巨人軍は永久に不滅です」の名言を残した引退セレモニー (1974年)

第3章 屈辱を土台に

〈1974～1980年〉

背番号「90」の監督初年度は球団史上初の最下位に終わったものの、翌1976年にはリーグ優勝を達成します。1979年には『地獄の伊東キャンプ』で若手選手を鍛え上げましたが、1980年に3年連続で優勝を逃した責任をとり、監督を辞任しました。監督としての長嶋の苦闘と歓喜を振り返ります。



V2を達成し、無観客の後楽園球場で長嶋監督を胴上げする巨人ナイン (1977年)

第4章 充電の旅

〈1981～1992年〉



解体目の後楽園球場で名残を惜しむ長嶋 (1987年)

監督引退後の12年間を長嶋本人は「野球界に復帰するための勉強と充電生活だった」と語っています。エチオピアの難民キャンプ訪問や五輪取材など、野球以外の活動に精力的に取り組みました。1992年秋に監督復帰が決まり、松井秀喜をドラフト1位で獲得。以後、長く続く師弟関係がスタートしました。



巨人入団が決まり、対談する長嶋監督と松井選手 (1992年)

第5章 燦爛と輝く

〈1993～2001年〉



宮崎キャンプでグラウンドコートを脱ぎ、背番号3を披露する長嶋監督 (2000年)

1993年に背番号を現役時代の「3」を2つ重ねた「33」に変更。1994年、中日ドラゴンズとの「10.8決戦」では「勝つ!勝つ!勝つ!」とチームを鼓舞してリーグ優勝を決め、日本一にも輝きました。1996年には11.5ゲーム差を逆転する「メーク・ドラマ」を実現。2000年には26年ぶりに背番号を「3」に戻し、ダイエーホークスの監督になっていた盟友・王貞治とのON対決を制して二度目の日本一に。



リーグ優勝を決め、巨人ナインに胴上げされる長嶋監督 (1994年)

第6章 “ミスター”を全うする

〈～2025年〉



「長嶋茂雄DAY」の特別試合に登場した松井秀喜、長嶋、阿部慎之助監督 (2024年)

2002年に野球日本代表監督に就任しましたが、2004年に脳梗塞で倒れ五輪で指揮を執ることはできませんでした。その後は、不屈の精神でリハビリの日々を過ごします。2013年に愛弟子・松井秀喜とともに国民栄誉賞を受賞。21年には東京五輪開会式で聖火ランナーも務めました。同年、野球界で初となる文化勲章を受賞しました。病身ながらたびたびグラウンドを訪れ、後輩たちを激励し続けた長嶋。いつまでも野球と巨人軍を愛する「ミスター」の姿は変わることがありませんでした。